

第6学年3組 道徳学習指導案

平成18年5月30日(火)第3・4校時

授業者 教諭

- 1 主題名 世界の国に心を向ける 4-(8) 国際理解・親善
- 2 資料名 ハンガーマップ(光村図書)
- 3 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

交通の発達や高度情報化社会の到来により、外国の人々の生活や文化、政治・社会情勢などに関する様々な情報が、簡単に手に入るようになった。国際化社会に生きる児童には、そうした情報を正しく理解し、世界の人々とともに生きようとする態度が求められている。特に食糧問題については私達人間が生きていくために必要不可欠なものであるだけに、人ごとではなく児童一人一人が自分の問題として真剣にとらえ、問題意識をもっていくべきであると考えます。

(2) 児童について

児童は昨年度から、栄養教諭とともに社会科・家庭科・総合的な学習・学級活動など様々な教科等を通して食に関する学習を続けてきている。特に昨年度の社会科学習「わたしたちの生活と食料生産」においては、毎日の自分の生活と食料生産との関わりについて学習し、我が国は食料自給率が低いにもかかわらず外国からの輸入にたより豊かな食生活を送ることができていることに気づくことができたり、毎日学校で食べている給食の食材についての農場体験を通して地場産食材のすばらしさにも気づくことができたりした。しかし、まだまだ世界の食糧問題にまで目を向けている児童は少ないと思われる。特に飢餓に苦しむ子ども達の様子を写真などで見たことがあっても、世界の食糧分配の問題についてまで考える機会は今までにない。

(3) 資料について

本資料は光村図書版の資料であるが、児童の実態を考慮した上で道徳における「食に関する学習」を実施するのにふさわしい資料と思われるため取り扱うことにした。国連食糧農業機関作成の「ハンガーマップ」は、栄養不足の人口の割合が五段階で色分けされて記されている。さらに本資料は、「ハンガーマップ」に食糧分配の不平等さを表したデータを加えて構成している。このようなデータを使って話し合いの材料としたり、自分自身の生活を振り返らせたりするなど、児童の実態に応じて効果的な活用が可能な資料である。

世界地図については既習の学習で使用したことがあるが、国名などについての知識はあまりない。今回の学習に必要なと思われる内容については、事前に取り扱っておきたい。また「JICA」の方と相談して、今回の学習に適切と思われる写真や映像等が他にあれば積極的に授業で取り入れていきたい。

(4) 指導について

体づくり部会の視点「望ましい食生活が実践できる子ども達の育成」に従って、本時では「道徳」の学習を通して、自分たち一人一人がより良い食生活を送ろうとする意欲や態度を育てていきたいと考える。

導入において「心のノート」P.102を活用して、児童に国際人としての自分たちへの意識づけをしたあと、ハンガーマップや食糧分配のデータについて自分なりの考えをしっかりと持たせていきたい。ハンガーマップなどのデータの説明は、ゲストティーチャー「JICA」の方をお願いします。「JICA」福井の方にゲストティーチャーとしてお話を伺うことにより、身近な地域の方が国際協力推進員として活躍されていることを実感させたい。さらに実際の現地での食糧不足の厳しい現実を聞いたり、写真などを見せてもらったりすることにより、「なぜこのような格差が生まれるのだろう」といった疑問を持ち、この食糧問題を自分たちにとってより身近な問題として受け止められることと思う。

また児童は昨年の「食に関する学習」を通して、毎日の給食に関わる生産者をはじめとするたくさんの方々に対する「感謝」の気持ちを持つこと、またたくさんものの「命をいただく」ことへの「感謝」の気持ちを持つことの大切さについて学んでいる。実際に、現在本学級の給食の残食は殆どないという状況であるが、今回の学習を通して給食だけでなく、自分たちの日々の食生活全般を見直し「自分たちにできることは何か」について深く考えさせていきたい。

さらに、「JICA」の方から我が国がどのような形で国際援助や国際協力をしているのか現状を聞かせてもらうことにより、自分たちが「国際人」としてこれからどうあるべきかについて考えるきっかけをつくっていききたいと考える。

4 本時のねらい

世界の食糧事情を知り、自分の食生活を見つめ直すとともに、世界の人々との関係を考えながらより良い生活を送ろうとする態度を育てる。

5 準備物

「ハンガーマップ」の資料（資料差し替えのため） 「ハンガーマップ」地図拡大版
 児童用ワークシート、心のノート

6 本時の展開

過程	主な発問と予想される児童の反応	支援（・）と評価（☆）
気づく	<ul style="list-style-type: none"> ○「ハンガーマップ」を見て、世界の食糧事情について気がついたことを発表しましょう。 ・栄養不足度が非常に高い、やや高い地域を合わせると世界でかなりたくさんの人々が飢えている。 ・アメリカやヨーロッパの国々、日本などは栄養不足度の割合が極度に低い。 ○なぜこんなに栄養不足度に差があるのでしょうか。 ・戦争をしているから十分な食糧がないのだと思う。 ・干ばつなどの災害が続いているから食べるものがないのだろうか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」の記述をもとに、本時は食糧不足の問題について考えることを明確にさせる。 ・発表の内容を焦点化するために「感想」と「疑問点」とに整理して板書する。 ☆世界の食糧事情の格差について自分なりの感想や疑問を持つことができたか。（発表）
考える・深める	<ul style="list-style-type: none"> ○ハンガーマップについて「JICA」の方の話を聞いてどんなことを感じましたか。 ・戦争が原因で小さい子どもが食糧不足になっているのはかわいそうだ。 ・食べることに精一杯の生活をしている人が世界中にたくさんいることがわかった。 ・干ばつなどの自然災害が起こるとたくさんの人々が飢餓状態におちいってしまうから恐ろしい。 ・世界全体ではけっこう食糧があるのに、食べ物豊富な国とそうでない国との差があまりにも大きいことがわかった。 ・食糧が足りない国に、食糧がもっと充分に行き渡るようにしなければいけない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「疑問点」について考えていけるように「JICA」の方に説明してもらおう。 ・具体的な人々の苦しい生活についても写真などを使って話をしてもらおう。 ・資料の中の「食糧分配の不平等さ」についてのデータについての説明もしてもらおう。 ☆「ハンガーマップ」などに表れた食糧事情について正しく理解できたか。（発表・行動観察）
見つける	<ul style="list-style-type: none"> ◎食糧不足の問題に対して、自分達の毎日の生活の中でできることを考えてみましょう。 ・学校みんなの給食の残食をなくす。 ・家庭でも、家族みんなの食事での残食をなくす。 ・無駄な買い物をしない。 ・買ったものはきちんと食べる。 ・外食をしたときにも残食をなくす。 ・残り物をうまく利用した献立を考える。 ・「もったいない」という気持ちを持つ。 ・賞味期限を正しく理解して無駄なく食べる。 ○「JICA」の方の話を聞いて、国際援助や国際協力について今後も取り組んでいかなければならないと思うことはどんなことでしょうか。 ・日本の国として食糧の援助をこれからも続けていかなければならないと思う。 ・農業技術協力など、生活を援助するための技術協力をすることは大切だと思う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の内容とも関連づけて、毎日の自分の生活を振り返り自分が今できることをしっかり考えさせる。 ・当たり前やってきたことでも、それがなぜ必要なことなのかを考えさせる。 ☆毎日の自分の生活を振り返り自分ができることを深く考えることができたか。（発表・ワークシート） ☆「JICA」の方から、国として行っている国際援助や、「JICA」が行っている国際協力について説明をもらおう。 ☆国際的な援助や協力について理解することができたか。（発表）
高める	<ul style="list-style-type: none"> ○先生の話をお聞きしましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の毎日の生活を見直しより良い食生活を送ること、さらにより大きな視野に立って食糧問題を考えていくことの大切さを理解し、実践していこうとする意欲づけを図る。